

八戸工業大学 同窓会報

第10号

3月・9月発行

八戸工業大学

同窓会本部事務局

TEL:0178-25-8027

FAX:0178-25-6183

機械系同窓会『蒼峰会』&電気系同窓会『水交会』

～ 設立三十周年記念事業 ～ 報告

八戸三社大祭が
終わった直後の八
月五日午後六時よ
り、八戸グランド
ホテルにおいて同
窓生の集う会が開
催されました。

今回は、機械系
同窓会『蒼峰会』
および電気系同窓
会『水交会』の創
立三十周年を記念
して、両学科の同
窓生を中心にして
開催されました。
参加者は、事前申
し込み者二百十一
名、当日参加者十
名でした。

■ 記念講演会

はじめに白川直
人同窓会会長（昭
和五十五年建築工
学科卒）の挨拶が
あり、引き続き本
学学長庄谷征美先
生による記念講演
が行われました。

講演の題目は、
『地震災害から見

た技術者の責任について』でした。

阪神淡路大震災における巨大コン
クリート建造物の破壊の生々しい
写真を示しながら、倒壊のメカニ
ズムを解説したもので、非常に興
味深く拝聴しました。地震に強い
コンクリートや、劣化に強いコン
クリートについての専門的な話し
を噛み砕いて説明して
いただきました。

また、耐
震偽造問題
に関連して
技術者倫理
も取り上
げ、技術者
としてある
べき姿と技
術者責任に
ついて述べ
られ、参加
者に深い感
銘を与えま
した。



■ 同窓生の集う会

記念講演会の後は、グランド
ホールを会場にして、懇親会に
移りました。同窓会の旗の前にし



頭で中締めとしました。

最後になりましたが、集う会に参
加いただいた同窓生および教職員
の皆様には、厚くお礼申し上げます。
またの機会にお会いできることを
楽しみにしています。

東北支部活動

東北支部同窓会は平成十四年に
機械科同窓会と土木科同窓会が中
心となり、東北支部合同同窓会
として発足し現在に至っており
ます。主な活動は全学科対象とし
た年一回の支部総会がメインイベ
ントであり、同窓生の交流・大学
の現状や八戸の概況も知って頂く
機会と成っております。支部役員
は同窓会に向けての準備・イベン
ト内容の検討・手配関係・集客動
員等、今年も多く同窓生が集い

友好を深められる様、幹事一丸と
なって取り組み致しました。東北
支部同窓会では、集う会の前に毎
年、大学主催の講演会も催して頂
き、年一回地方でも講演が聴いて
頂ける機会となっております。毎
年又参加したいと思うような特別
企画も悩んで工夫し実施しており
ます。定例でも豪華景品が当たる
ビンゴゲームの実施・大学の近況
報告・懐かしい先生の話等もたく
さん聞けますので、東北支部同窓
会に一度参加してみたい。他の
の行事としては、学科単位でのゴ
ルフ・夜の国分町などの懇親会
等も実施しており、今後釣り大会
等も含め同窓生のつながりを大切
に取り組んでまいります。東北支
部の本拠地宮城県だけでも千数百
名の同窓生がおり、毎回多くの方
に参加をお願いし、山形県、福島
県近隣の同窓生にも参加を依頼し
ておりますが、今後の少子化への
対応・大学のバックアップも含め
た同窓会活動を考え、益々発展さ
せる必要があります。その為に、
新卒者を含めた若い同窓生を幹事
に迎え、若返りを図る事や山形県、
福島県近隣の同窓生の尚一層の参
加、大学の先生方・同窓会事務局
の尚一層のご協力を頂く必要があ
ります。東北支部同窓会を大きく
し・発展させていく為には、まだ
まだやるべき事が沢山ございます。
これからも皆様の御協力・ご
支援を宜しくお願いいたします。

環境建設工学科 シビル会通信

○庄谷先生が学長に就任



本学科教
授で工学部
長・教育研
究戦略室
長・異分野
融合科学研

○人事異動
本学科所属で感性デザイン学部
長の長谷川明先生が感性デザイン
学科長を兼任することになりました。
また、異分野融合科学研究所
にも所属します。

研究所長の庄谷先生が四月より学長
に就任されました。また工学研
究科長および工学部長を兼任し
ます。庄谷先生（学長）は昭和
五十九年に本学に赴任以来、学生
部長や本学科長、そして上述した
要職を歴任されています。今後は
大学運営という重責を担われま
す。本学科教職員一同も学長を
支えながら本学の更なる発展の
ため全力で頑張ります。同窓生
の中には多忙な先生の体調を心配さ
れる方も少なくないと聞いており
ます。多忙のため直接連絡するこ
とは難しいので、本学科教員経由
で連絡を取るのが確実と思われる
です。また、各地で開催する同窓会
に出席されれば先生にお会いする
ことができるでしょう。

前教務部次長の桃井龍慈先生が
本学科所属となりました。
磯島康雄技術員が感性デザイン
学科へ異動しました。代わりに学
生課から関川定美技術員が配属さ
れました。

○退職教員
須田熙先生が二年間の特任教授
としての任期を終え退任されまし
た。

佐藤久先生が三月を持ちまして
本学を退職されました。四月から
は北海道大学大学院工学研究科

名誉教授の称号授与

須田前特任
教授および塩
井前教授に七
月の本学教授
会において名



誉教授の称
号が送られ
ました。お
祝い申し上
げます。

環境創生工学専攻 水代謝システ
ム講座 水質変換工学研究室のC
OE特任助教授に就任されまし
た。世界的研究拠点での研究活動
にご期待申し上げます。

○教職員挨拶

▼桃井 龍慈 教授

昨年まで、七年間にわたり教務
部次長（募集担当）として、学生
募集の仕事に携わってきました。

十八歳人口の減少、進学率の上
昇に伴う入学生の多様化、また大
学と高校の連携教育の重要性な
ど、いわゆる「生徒から学生への
スムーズな移行」を目指した施策
が叫ばれた時代でした。長い間、
この重要な仕事に就けたことは、



私自身が高校
教員としての
経験があった
からだと考え
ています。

青森県の工業高校教員の中で
は、本学卒業生が最も多数に
上っており、しかもお一人お一人
の活躍で、青森県工業教育の活
性に大きく貢献されていることは
心強い限りです。

各県で催されている本学の「教
育と入試に関わる説明会」でも、
多くの同窓教職員の方々のお世話
になつてきました。心から感謝申
し上げます。

今春から、環境建設工学科の一
員として、授業を担当しています。
専門は「英語」であり、一、二年

生が中心のクラスです。入学生は、
出身高校種の多様化と「ゆとり」
教育を受けてきた学生で、一律の
スタートラインを引くことはとて
も難しいことです。学生の目線に
立った教材開発と新鮮な学習方法
の工夫を研究テーマとして取り組
んでいます。今後とも、よろしく
お願いします。

▼技術員 関川 定美

同窓生の皆さん、健康でお過ご
しですか。私は、今年度から環境
建設工学科に配属となりました。
少し自己紹介したいと思います。

高校卒業後すぐに建築会社に入
務し二年間現場を経験しました。
昭和五十五年四月から八戸工業大
学建築工学科に技術職員として勤
務いたしました。その後平成十六
年四月に学生課の配属を経て、平
成十八年四月から環境建設工学科



技術職員とし
て、今までの
経験を生かし
ながら実験実
習の補助等を
しています。当時と現在では教育
環境がかなり違います。

卒業して一度も母校を訪れたこ
とのない同窓生の皆さん、気軽に
来てください。

○新任教員の紹介

▼鈴木 拓也 助手

四月より環境建設工学科の助手
として採用されました鈴木拓也と
申します。ご縁があり本学に入



して以来、
学部・大学
院前期・後
期課程の九
年間、さら
に任期付研

究員として二年間の計十一年間お
世話になり、今日に至っています。
研究室は環境工学（福土）研究室
に所属し、現在も同様です。研究
内容は、学生時代は高度水処理技
術（膜ろ過）の研究に従事し、現
在も継続中です。

現在さらには青森・岩手県境産
廃不法投棄現場における汚染物質
の流出解析や微生物を用いた廃棄
物土壌の浄化実験なども行ってい
ます。水道工学を基幹テーマとし
ている研究室ですが、時代の要請
から廃棄物系の調査・研究をす
る機会が多くなっています。

研究面では何よりも、前任の佐
藤久先生のように多くの業績を産
出するポテンシャルを持ち合わせ
た研究者になるよう頑張ります。
教育面では、まだ不慣れな部分が
ありますが演習・実験系講義を主
に担当しています。

その他に学科の施設と同窓会
（シビル会）事務局を担当してい
ます。本会の運営に関しては、同
窓生の皆様および諸先生方の助言
を頂きながら盛り上げていく所存
です。今後ともよろしくお願い致
します。

八戸工業大学学匠会通信

■幹事会開催

八戸工業大学学匠会は、エネルギー工学科同窓生と生物環境化学工学科同窓生、および教職員との親睦を深めることを目的として、平成十八年四月一日よりエネルギー工学科OB会から名称変更して設立された会です。名称変更後初めてとなる幹事会を七月十五日(土)に八戸市内で開催しました。

なりました。幹事会で承認された役員は次の通りです。

会長：荒谷一豊 (P1期生)
副会長：浜部弘毅 (P1期生)
掛端英二 (P6期生)
村上雅人 (B1期生)
関東支部長：田村祐 (P1期生)
会 計：滝沢勇明 (P1期生)
大瀧倫和 (P2期生)
監 査：宮寄達雄 (P3期生)
沢田敏教 (P5期生)

※括弧内の

Pはエネルギー工学科同窓生
Bは生物環境化学工学科同窓生
■エネルギー工学科同窓会誌
第十二号発行以降のこと

生物環境化学工学科 村中 健
エネルギー工学科卒業生の皆様、また、生物環境化学工学科卒



十七名が参加し、役員の改選や会則の確認、事業計画など重要な議案が数多く、熱の入った会議と

業生の皆さん如何お過ごしでしょうか。エネルギー工学科の同窓会誌第十二号(最終号)を発行したのが平成十三年末で、あれから四年半経ちました。

その間に異動のあった教員についてですが、梅森教授、本間教授は平成十三年度で退職し、大西教授は残念なことに病気で平成十五年九月に逝去されました。奥田教授は平成十六年度で退職し、高橋燦吉学長は平成十七年度で退任・退職し、宮川教授、青木助教授は平成十八年度から機械情報技術学科に移動しました。現在の学科教職員は岡村学科長、竹園教授、小山教授、伊藤幸雄教授、村中、若生教授、福原教授、貝守助教授、岩村助教授、小比類巻助教授、高橋晋講師(エネルギー工学科九期生)、小林正樹講師、鮎川助手、細越技術員、中谷技術員の十五名と学科事務担当、庶務課所属の海蛇名さんです。同窓生の皆さんはそれぞれ忙しい時期と思います

が、機会があれば来学していろいろな話を聞かせて下さい。就職を探している場合、学科教員が役に立っている場合もあると思います。それでは皆様お元気で。

「私の近況」本間 憲裕

(エネルギー工学科二期生)



エネルギー工学科第二期生の本間です。現在、山形県部の製造会社の製造課長職で、二十四時間操業の現場を預かる気の抜けない立場でがんばっております。

わが社は、私が二十年前に入社した時には従業員が百数十名の小さい会社でしたが、自動車の低燃費化による需要拡大に伴い、現在では世界五極(日本・中国・アジア・欧・米)に製造会社を持つまでに発展しました。

私は、一九九九年、最初の海外

進出の技術責任者としてアメリカに派遣されて、工場の設立から安定生産までの四年間をアメリカで生活するという、大変有意義な体験が出来ました。

しかし、わが社のような小企業は海外進出に大人数をかける余裕は無く、派遣されたのは自分を含めた二名だけで、この二人に全てを任せられたために、大変なことの連続でした。そのためか、通常の海外生活で必ず体験するはずの「言葉・文化・宗教・食生活等のギャップ」による苦痛さえ感じる余裕も無いまに仕事に追われて、ようやく工場が軌道に乗り始めた頃には、生活も快適になっていました。

四年間のアメリカ赴任を終えて現在は山形本社工場に戻りましたが、アメリカの巨大な体力を身にしみた自分としては、日本の製造業の生き延びる道として、製品開発・技術・品質で常に世界No.1を走り続けることが重要と改めて認識しております。

阿部博明さん 大活躍にて優勝!

(P16期生)



二〇〇六年九月五日(火)東京ドームで開催された第七十七回都市対抗野球におきまして、秋田県にかほ市のTDK

「都市対抗野球を振り返って」

阿部博明 内野手

今回の都市対抗野球全国優勝という偉業を振り返ってみると、大きな要因の一つとして「勢い」が挙げられると思います。仕掛ける作戦がごとく成功し、それを選手個人が感じ取り、自信にしている切っ掛けだったと思います。その象徴として五試合中三試

合が終盤での逆転勝利でした。よく、「野球は最後まで何が起るか分からない。野球はツアアウトから」等と言いますが、この言葉の本質と野球の原点を見れたような気がします。純粹に試合、野球に集中できたのは野球人生で初めてかもしれません。この感覚、気持ちは一生の財産となるでしょう。

最後に自分の人生の中で出会えた皆さんがいて、今の自分があり、皆さんを、両親を尊敬できる人間に育てて頂いたことに感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

いつの日も心のこもった叱咤激励、誠にありがとうございました。

機械情報技術学科

蒼峰会だより

■自動車工学コース設立について

機械情報技術学科

教授 大黒 正敏

同窓生の皆様にはお元気で御活躍のことと推察致します。本学科は創生工学コース（日本技術者教育認定機構（JABEE）認定）と総合工学コースの二コース制を

採っています。このたび平成十九年四月入学生から新たに自動車工学コースを設立することになりました。バブル崩壊後のいわゆる空白の十年間、日本の経済・産業は低迷し、もの作り産業も衰退していました。しかし、最近になって、地方格差はあるものの日本経済

①自動車愛する多くの生徒に大学教育の機会を与える

②自動車技術者養成という社会ニーズに応える

③優秀な機械技術者を世に送り出すことでわが国の産業基盤に貢献する

ことを目的として、ものを知り、ハードに強い技術者を養成するために、実物教材を用いた実習に力を入れ、それに加えて、修了時に二級自動車整備士の資格が取得できるようにするものです。具体的には、国土交通省の認定校となり、卒業年度の三月に実技試験免除で学科試験が受験できるようなるものですが、全国的に見ても整備士資格取得ができる四年制大学は数少なく、しかもJABEE認定のコースを併せ持つのは八戸工業大学だけです。このような自動車を題材とした教育は、自動車産業のみならず機械産業、

平成 19 年 4 月

二級自動車整備士資格が取得できる

自動車工学コース 新設

（定員 25 名：国土交通省認定申請準備中）

八戸工業大学・工学部

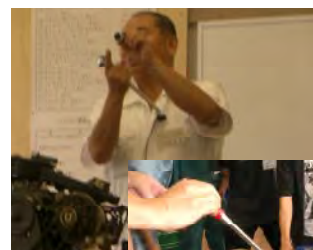
機械情報技術学科（定員 75 名）

◆創生工学コース（JABEE 認定）

◆総合工学コース

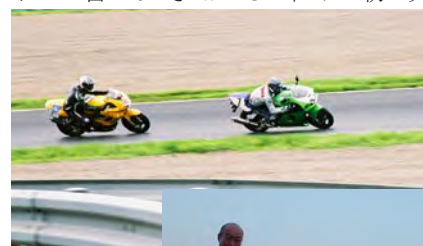
◆自動車工学コース

製造業など広い分野への応用が可能であり、同コース修了生の活躍の場は大変広くなります。機械情報技術学科は三コース制になるわけですが、入試は機械情報技術学科で一括募集し、一年生の一年間はじっくりと各コースの特徴を見極めて、二年進級時に学生の希望を勘案して各コースに振り分けることとなります。各コースとも四年間で修了（卒業）し、学士（工学）となります。



写真は、平成十八年度のエンジン解剖の実習風景です。

私は S56 年に卒業し、現在は本田技研工業で四輪の新型車の開発に携わっております。大学では機械工学科に所属し、卒業後は中学ごろからの希望であった本田技研工業に入社しました。バイク、クルマのメーカーであるホンダに入ろうと思っていたので幸いでした。入社し現場実習を終え、品質と新機種を扱う部門へ配属されたのですが、初めての忘れられない仕事は、たまたま本田宗一郎が狭山工場を訪れる事になり、工場内を移動するのを使う



シテイ（初代）をピカピカに洗車する事でした。上役から、もうそのぐらいでいいヨと言われても、夢中でスミズミまでそのレモンイエローのシテイをピカピカにした事を覚えてます。その後は新型アコードの品質業務で、北米オハイオ州の四輪工場ホンダオブアメリカに数ヶ月出張したり、イギリスの四輪工場ホンダUKに同じく数ヶ月滞在したりと、いろいろな業務を経験しました。（現在は栃木に勤務しております）このような仕事が出来るとも大学でいろいろな先生方に、工学についてはもちろんの事、社会、文学、心理学 etc... の講義の中で、いろいろな考え方を教えていただいたおかげと感謝しております。社会へ出て見ると、企業も結局は人間の集まりの中で、いろいろな事が決定されていくので、つくづくそう感じます。ホンダについては、いつも良い時ばかりではなく、私が入社してからよりトラクタブルヘッドライトの二代目（プレリウドが爆発的に売れたかと思うと、その後ヒットに恵まれず、結局は技術部門からも営業に出向したり...）といろいろな事がありました。最近では F1 もずっと調子が出ず、エンジンもトラブルが多くてどうなるのかと思っていましたが、そんな時でも社長以下、壊れてもいから思い切った徹底的にやれという事で、この間待望の一勝をあげる事ができました。やはりうまく行かない時も、あきらめずにやってきた甲斐があったようです。八月十日にはそのドライバーのジェイソンバトンが会社（栃木）に来て、社内も盛り上がり、その



た。最近では F1 もずっと調子が出ず、エンジンもトラブルが多くてどうなるのかと思っていましたが、そんな時でも社長以下、壊れてもいから思い切った徹底的にやれという事で、この間待望の一勝をあげる事ができました。やはりうまく行かない時も、あきらめずにやってきた甲斐があったようです。八月十日にはそのドライバーのジェイソンバトンが会社（栃木）に来て、社内も盛り上がり、その

■八工大関係者の皆様へ S56年度機械工学科卒業生

笠原義弘

私は S56 年に卒業し、現在は本田技研工業で四輪の新型車の開発に携わっております。大学では機械工学科に所属し、卒業後は中学ごろからの希望であった本田技研工業に入社しました。バイク、クルマのメーカーであるホンダに入ろうと思っていたので幸いでした。入社し現場実習を終え、品質と新機種を扱う部門へ配属されたのですが、初めての忘れられない仕事は、たまたま本田宗一郎が狭山工場を訪れる事になり、工場内を移動するのを使う

夜は宇都宮市内のホテルで祝賀会が盛大に行われたようです。：私レベルは呼ばれませんでした（笑）大学のほうも今度、自動車工学コースの開設等、新しいことにチャレンジしていくと聞いております。このような中で、大学で学んでいる学生の皆さんには自分のやりたい事と直接的な関係が無いのかなと思われるような講義で

も、自分でいろいろな関連付けて、どんどん応用されていく事をお勧めします。長い目で見ると、社会へ出てからいろいろな場面で役に立ちますので。最後になりましたが先生方はじめ、大学のほうも益々発展され、学生の皆さんもいろいろな場で、大いに活躍される事を心より祈願しております。それではこの辺で。

建築工学科 拓北会

○学科長挨拶

滝田 貢 教授



八工大卒業生の皆様、お元気ですか。本年四月より、建築工学科学科長、大学院建築工学専攻の専攻主任になりました滝田貢です。私は昭和三十一年生まれです。私は昭和三十一年生まれです。ので、建築工学科は一回生と一年違いになります。今年で、本学に勤務して二十三年目になります。宜しく願います。

建築工学科は、昭和五十一年に設置され、今年で三十年になりました。現在、本学科には教職員合わせて十八名のスタッフが在籍しています。一昨年から三十才台、四十才台の新任教員三名が加わり

ました。現在、学科の定員は七十名で、一頃に比べると少々寂しい状況にあります。大学院建築工学専攻には修士課程、博士課程を合わせて二十三名（社会人三名を含む）が在籍し、同専攻始まって以来の活気を呈しています。卒業生の皆さんも、大学院でもう一度学んで見ませんか？

本学科では、新たな魅力作り、より充実した教育体制の構築を目指しています。そのためには、本学科に対する卒業生の皆さんの意見や要望を受け止める機会を作る必要があると考えています。また、卒業してお終いではなく、卒業してから継続して付き合える学科にしたいと考えています。ご協力、お願い致します。

最後に、卒業生の皆さんの活躍をお祈り致します。

■PC必修化本格始動

建築工学科では、今年度の新生入生よりノートPCの必修化を行い、教育へのPCの導入を開始しました。これは建設業界で



のCADの普及など、社会の要請に対応するために、学生個々がPCを自分の道具として使いこなせるようになることを目的としたものです。学生のノートPC所有は、昨年度に希望学生を対象に試し、その状況を見ながら本年度より本格実施となりました。PCを使う授業としては情報関連科目、設計関連科目を柱に、今後多くの授業で対応する予定です。情報関連科目では、単にソフトの使い方のみでなく、購入直後のPCのセットアップやOSのリカバリ、アンチウイルスソフトを使用する意味と設定など、自分のPCを一から使えるようになることを目的

とした授業を行っています。また設計科目では2D/3DのCADを導入し、一年次より設計や製図に活用することで、二年度以降の本格的な設計科目の中で活用できるように学習していきます。

また、PCの必修化にあわせて建築工学専門棟の二階を無線LAN化し、二階のどこでもインターネットを使用できる環境を整備しました。学生からもメールで質問が来るなど、早くもその効果が現れています。今後も時代の流れを見据え、施設の整備などを続けてゆく予定です。

○新任教員の挨拶

助教授 陳 沛山 (Chen Peishan)

まず、個人紹介をさせていただきます。私は中国の出身で、一九八八年の来日以前は六年間の建築設計に従事しました。

来日以降は、日本国文部省国費留学生に選ばれ、法政大学大学院建設工学専攻



において空間構造及び最適化理論を研究し、一九九六

年に博士（工学）を獲得了しました。その後、前田建設工業株式会社において研究及び実施設計に従事し、今年四月に八戸工業大学建築工学科助教授に就任しました。これまでの研究と実務経験を活かして、大空間と超高層建築物の構造デザインを中心に研究と教育を展開しています。新任ですので、宜しくお願いします。

構造設計は人格的、創造的な行為であると考えています。今後の教育において、私は基礎科目の教育に力を入れ、学生の創造的な発想の開発に工夫したいです。また、教育の根幹は人間性の涵

養にあると強く感じ、工学教育を人間教育の場とみなし、人間性豊かな技術者や研究者の養成に努力します。アジアの発展、EUの統合、そして資格制度の国際化の背景で、我が大学の国際的な展開に努力しようと考えています。

また、私は太極拳の源流である中国の陳氏太極拳の第二十代伝人であり、日本、中国、欧米諸国において健康と平和を愛する人々と集い国際交流活動を行っています。太極拳を通じて地域や大学の国際文化交流を積極的に推進したいと考えております。ご協力の程よろしく願います。

電子知能システム学科 水交会ニュース

■研究室探訪 増田研究室

業生の皆様お元気ですか。増田研究室は開学以来三十四年間で卒業生を二百四十八名余を輩出しました。卒業生の方々は日本および世界各地で元気に活躍されて居られます。近況を年賀状や電話等で知らせて頂いて居ります。その中には大学院博士前期課程および後期課程の修了生も居ります。

私の研究のメインテーマは複合ペロブスカイト形酸化物強誘電体材料の探索およびセンサーデバイスの研究です。ペロブスカイト関連化合物は構成元素と結晶構造の多様性により電界、温度、圧力、光不純物などに対してそれぞれ分極履歴現象、焦電性、圧電性、電気光学特性、半導体性等の現象を示す多岐に亘る機能の宝庫となっており注目されて居ります。最初の頃はホットプレス法により電気光学デバイスの開発に主眼をおき透明セラミックスの開発を十五年程度行ないました。



その後、研究の方向は半導体プロセス技術および電子物性の知識をベースにして超伝導薄膜

プロセスで蓄積された薄膜プロセス技術が強誘電体薄膜に利用した不揮発性メモリデバイス (FRAM) に移りました。このメモリーの特徴は低電力動作および不揮発性でしかも大容量記録が可能となります。この研究のコンセプトは特に最近の情報伝達システムは動画面送を行なうブロードバンドシステムであり、今やDvDs (テラビット) という膨大な種々の情報を光ハイパーに乗せて伝達する事が可能となつています。この事はマルチメディア社会の到来を意味しており、新しいIT技術が思考している社会システムであります。この研究は日本学術振興会未来開拓研究として取り上げられ私がプロジェクトリーダーとなり研究を取り纏めました。最近の研究が発散気味となり、色素増感型太陽電池の開発、マイクロ水車発電機の開発、トイレ機能付き電動車椅子やベットの開発など人間の尊厳を重要視したリハビリ機器の研究にも心を動かされている今日この頃です。

研究は温故知新です。研究は若い学生の力により進歩します。後世畏るべし、と思います。皆様の益々の発展とご健勝を祈ります。

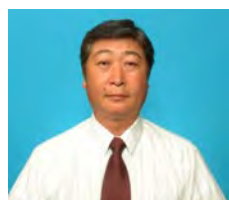
■OB・OGだより
松村 純一 さん

昭和五十五年電気工学科卒

(佐々木研究室)

現在：松村電気管理事務所

(社東北電気管理技術者協会所属)



面をお借りして述べたいと思います。私は、同窓会実行委員会の一員として参加させて頂きま

した。電気工学科の実行委員会は、開催日まで一ヶ月半足らずの六月二十三日に発足しましたが、はっきり言って大変不安でした。私は第二回目の会議から参加しましたが、その時の会議でもまだ具体性が少なく、漠然としたものでした。しかし、その後の会費制の懇親会で、アルコールがほどよく回ってきた頃、実行委員同士もうち解けてきて、とにかく沢山の参加者を集めようと、富士実行委員長を中心に団結力と意識が高まってきました。その後の会議では、何れの議案も即決され、気持ちが一いつになつていく様子がよく分かりました。改めてアルコールの力は素晴らしいと、感じた次第です。このような中、私も負けてはいられないと思ひ、仙台から青森までの昭和五十五年卒の同級生に、電話・メール・FAXで連絡しましたが、殆どの人が同窓生の集う会があること自体を知らませんでした。そ

こで、デリー東北新聞に出した広告を切り抜いて拡大コピーし、FAXやメールをしました。

しかし、青森地区は「ねぶた」と言うこともあり参加者がいませんでした。その他にも工事現場で、先輩や後輩に声をかけたりして、迷惑をかけたと思いますが、お陰様で沢山集まってく頂き、大変うれしく思っております。そして当日、何歳になつても同級生は同級生だなぁと思ひながらテーブルを囲み、近況報告をしたり、先生方と何十年ぶりの再会をしたりしている内に、あつという間にお開きの時間になりました。その後は当然二次会ですが、割愛させていただきます。改めて富士実行委員長をはじめとする実行委員の皆様、司会をして頂いた岩本さん、信山先生大変ご苦労さまでした。

そして参加して頂いた同窓生の皆様、大学の先生方、どうも有り難う御座いました。また次の機会を楽しみにしております。

岩本 明佳 さん

昭和五十八年電気工学科卒

(佐藤研究室)

現在：(株)岩本電機代表取締役社長



八月五日八戸グランドホテルにて開かれた八戸工業大学同窓生の集

う会―電気・機械工学科同窓会設立三十周年記念事業―に参加致しました。大学時代にお世話になった先生方、同窓生皆様方が多数参加いたしておりました。一人一人の先生方、同窓生の皆様を拝顔致しておりますと、若き時代(大学時代)にタイムスリップした感じでした。単位を貰えなくて何回も足を運んだ先生、人生の道標を教えてくださいました先生、サークルの恩師、等々懐かしう楽しく走馬灯のような一瞬でした。

さて、現在私は小規模の会社を経営しております。早いもので昭和六十三年創業してから十八年になります。産業機器、家庭電器等の内部配線加工(ハーネス)をしております。色々と苦難があつたのは確かですがその都度、学生時代のことが思い出され、何とか乗り切ってきた感じが致します。

また、当社に八工大の卒業生は私を含めて四名在籍、来年四月には一名入社致します。これを機会に八工大OBの力で新しい技術、新しい製品を世の中に送り出したいと考えております。これも一重に八工大に在籍したからこそ今の小生が有るものと感じております。大学には感謝し、卒業生として誇りをもってこれから新しい事に挑戦していきたいと考えております。大学の益々の御発展と同窓生皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

●情報専門ゼミナール発表会
エンジニアリング・デザイン能力
の育成

情報専門ゼミナールの発表会が、平成十八年七月二十七日に開催されました。昨年度までは情報工学ゼミナールと呼ばれていたこの発表会は、三年次までに修得した個別の授業科目の内容を組合せることと、また研究室のメンバーや友人らとの連携により、地域の課題への問題解決を行えるエンジニアリング・デザイン能力の育成を目指して、

(1) 地域社会の課題と

意見をまとめる

(2) マルチメディアの応用

(3) 自発的学習意欲を

学習・教育目標

としています。このような発表会形式は、平成十六年度の情報工学ゼミナールから導入されました。この講義は週一コマ合計十五コマの時間が割当てられています。テーマ決定、情報収集、課題解決意見の取りまとめや、あるいはデジタル・ビデオでの現場撮影、アニメーションや動画編集ソフトなどの使いこなしなど、講義時間以外での自発的な取り組みが求められています。

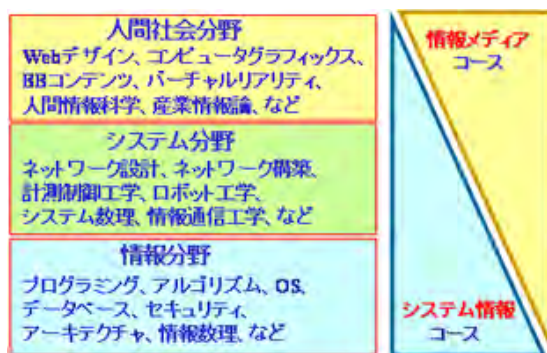
また、はじめのうちは各学生個人が主体となって情報収集などを行います。研究室単位での発表練習やグループミーティングなどを通じて、お互いに質問や意見の交換を行ったり、あるいはより効果的な調査方法や課題解決方法、プレゼンツールの利用法などの情報交換が行われます。こうした取り組みの結果、地域振興に役立つと思われる多くの作品が発表されました。

■情報メディアコースを開設

平成十八年度からシステム情報工学科のなかに、情報メディアコースを開設しました。従来の学科をシステム情報コースと呼び、これら二つの専門コースで構成される新たなシステム情報工学科がスタートしました。

情報メディアコースの学生は、CGやマルチメディアを駆使するコンテンツづくりとそのインテリジェンス技術を学び、情報クリエイターとして活躍することをめざします。学科で開講する授業科目は、マルチメディア分野、システム分野、情報分野の三分野にわたりますが、図のように、コースによって主体とする履修分野が異なります。そして、システム情報コースの学生はプログラムづくり、情

報メディアコースはコンテンツづくりに軸足を置いて学習します。入学時と各学年進級時にコースを変更できるので、学習を進めながら自分のやりたいコースに進めます。



■サイバーラボ新装

情報メディアコースの開設にともない、夏休み期間を使って学科設立当初から利用していたサイバーラボを一新しました。新しいサイバーラボでは、プログラミングなどの開発環境はもちろん、CGやマルチメディアを駆使したコンテンツづくりを行うため、パソコンには2GBのメモリ、3GHz相当のCPUを搭載させました。また、アプリケーションには企業でも主に使われているAdobeのPhotoshop CS・InDesign CS・Illustrator CSやMacromediaのDreamweaver8・Flash8などを採



用しました。さらに、学生が撮影、または制作した動画作品をスムーズに再生するため、動画再生に強い3DD方式

のプロジェクトも新規に導入しています。この他、学生がより快適に学習に取り組めるように机・イス・床なども全て改装しました。

■新入生オリエンテーション

I科一年生のオリエンテーションは、五月十一日～十二日の間、秋田県角館・小坂町にバス二台を連ねて実施しました。幸い天候

に恵まれ、教職員七名と新入生五十六名は、十一日角館の武家屋敷及び十二日小坂町の康楽館(芝居小屋)を見学しました。康楽館では、学生一名(高橋君)が舞台に招かれ即興の芝居を披露し、やんやの喝采を浴びました。十二日に全員無事帰還しました。



宿泊先のホテル玄関前での記念写真

卒業後も八戸工業大学 Active! mail を

ご利用されている卒業生の皆様へ

情報ネットワーク委員会 委員長

平成15年度以降の卒業生を対象に行ってきた、卒業後も在学中に利用していたメールアドレス Active! mail を使用して利用できるサービスについて、まことに勝手ながら下記のように使用可能期間を設定させていただきます。ご迷惑をおかけいたしますが、よろしく願いたします。

卒業年度	利用可能期間
15	平成19年2月末日まで
16	平成20年2月末日まで
17	
18	平成20年3月末日まで

以後、原則として卒業後1年間を利用可能期間と設定し、これを過ぎたものに関しては利用不可とさせていただきます。該当する方は、必要に応じ、利用期間中のプロバイダ等が提供しているメールアドレスへの以降をお願いいたします。

詳しくは

Active! mail ログインページ (<https://webmail.hi-tech.ac.jp>)

同窓会 Web サイト (<http://alumni.hi-tech.ac.jp>)

をご覧ください。

同窓会事務局から

▼ご家族の方へ

年二回本誌同窓会会報をご送付いたしておりますが、ご家族の方が見て同窓生本人が見ていないことがあるようです。

お手数ですが、ご子女に了承いただき同封のハガキにご子女現住所等必要事項をご記入のうえ、ポストへご投函下さるようお願いいたします。

▼同窓生の皆様へ

会報が届かない、見たことがないといった同窓生がおりまして、八戸工業大学同窓会事務局まで、電話またはメールで送付先（氏名、現住所、学籍番号または卒業年科）を連絡するようお願い下さい。また、現住所等変更になりましたら、速やかに同窓会事務局までご連絡下さるようお願いいたします。

同窓生のご子女、 弟妹の入学金減免

大学の良き理解者であり最大の支援者である同窓生のご要望のもとに、ご父母の入学時の経済的負担を軽減すべく、同窓生のご子女、弟妹を対象に入学金の減免措置を実施しております。

同窓生各位の身近な方に八戸工業大学をお勧めして頂きたく、この減免措置を実施するものであり、是非、ご活用賜りますようお願い申し上げます。

対象・同窓生の ご子女、弟妹

減免額・十七万五千元

●お問い合わせ先
入試課

アドミッション・オフィス

▼電話番号

〇一七八―二五―八〇〇〇

(直通)

■八戸大学ゴルフ大会

八月二十六日、八戸カントリークラブにおいて「第十二回大学O Bゴルフ大会」が行われました。今回は十五の大学から十九チーム、合計七十二名の参加者が募りました。

本学からは、機械工学科卒の能代谷伸（昭和五十二年卒）、佐京康美（昭和五十二年卒）、武田公生（昭和五十六年卒）、産業機械工学科卒の泉山賢一（昭和五十二年卒）が参加し、結果は下記の通りとなりました。

団体の部 第三位
個人の部 武田公生 第三位
グロス七十五（ベストグロス賞）

当日は好天に恵まれ、参加者の皆さんは実に楽しい時間を過ごすことができました。

■八戸工業大学ソフトボール部

創部三十周年 岩本明佳

私たちが青春を過ごした八戸工業大学ソフトボール部は、OB百八十名余りを輩出し、今年めでたく三十周年を迎えました。これを記念し、去る九月十七日（日）に記念祝賀会が盛大に開催され、北は北海道、南は愛知・新潟など、全国から多数の参加者がありました。



第一部では、にて現役選手との交流試合が催されました。創部当時の帽子がOB一人一人に手渡され、現役時代にユニホームが渡された時の緊張感と同様の雰囲気を感じ、何とも言えず感動の出来た瞬間が湧いてきました。当時の動きを思い出しながら一杯プレーしましたが、思うように体が動かなく、三振あり、エラーあり、ファインプレーあり、珍プレーあり。一つのプレーに大学時代、グラウンドで汗を流した全ての想いが蘇りました。試合結果は七対五で現役チームの勝利。大健闘でしたが残念でたまりませんでした。やはり、勝負事は勝たないと。

第二部は八戸グランドホテルにて祝賀会が開かれました。永田OB会長の挨拶から始まり、ご貢献

頂きました八戸市ソフトボール協会、小島部長、坂本監督に感謝状が贈られました。その後、「三十年の歩み」がプロジェクトに映し出された時は、当時の記憶が思いを走りま



「八戸工業大学地域情報メディアセンター」の建設資金の一部として、卒業生を初め関係各位から、貴重なご厚志を御寄せ戴き誠に有り難うございます。この事業を実現のためには、皆様からの一層のご理解、ご協力が不可欠であります。今後とも何とぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

八戸工業大学学長 庄谷 征美
同窓会会長 白川 直人

八戸工業大学
地域情報メディアセンター
建設に向けてなお一層の
ご理解、ご協力を

同窓会事務局の連絡先（各種連絡先としてご利用ください）

本部事務局（学務部学生課）

TEL: 0178-25-8027

E-mail: dosokai@hi-tech.ac.jp

機械工学科・産業機械工学科・機械情報技術学科（機械情報技術学科事務室）

TEL: 0178-25-8010

E-mail: dosokai-m@hi-tech.ac.jp

電気工学科・電気電子工学科（電子知能システム学科事務室）

TEL: 0178-25-8020

E-mail: dosokai-e@hi-tech.ac.jp

土木工学科・環境建設工学科（シビル会事務室）

TEL: 0178-25-8067(8030)

E-mail: dosokai-c@hi-tech.ac.jp

建築工学科（建築工学科事務室）

TEL: 0178-25-8040

E-mail: dosokai-a@hi-tech.ac.jp

エネルギー工学科・生物環境化学工学科（生物環境化学工学科事務室）

TEL: 0178-25-8050

E-mail: dosokai-p@hi-tech.ac.jp

システム情報工学科（システム情報工学科事務室）

TEL: 0178-25-8080

E-mail: dosokai-i@hi-tech.ac.jp